

第一編

中期計画進捗状況

～学部・研究科の取組～

I. 平成 28 年度の年次計画、実績及び自己評価

平成 28 年度の年次計画は、1. 教育、2. 研究、3. 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育研究、4. グローバル化、5. 組織運営の改善、6. 財務内容の改善、7. 自己点検・評価及び情報提供、8. その他業務運営、9. その他の 9 区分からなり、それぞれが、【平成 28 年度年次計画】、【平成 28 年度実績】、【平成 28 年度自己評価】で構成されている。

自己評価 I = 「年次計画を実施していない」
II = 「年次計画を十分には実施していない」
III = 「年次計画を十分に実施している」
IV = 「年次計画を上回って実施している」

1. 教育

【平成 28 年度年次計画(1)】

- ・平成 29 年研究科改組を申請し、文部科学省等への必要な手続きを進める。
- ・研究科改組に応じたディプロマ・ポリシーを公表する。
- ・PGP 実績に基づく MD 一貫教育の点検・評価を行う。
- ・ダブル・ディグリーの検討、コチュテル（共同指導）の実施等、プログラム開発を推進する。

【平成 28 年度実績(1)】

- ・平成 29 年研究科の改編及び博士課程前期課程の入学定員改訂（15 名増）が確定した。
- ・平成 29 年研究科の改編による教育課程に対応したディプロマ・ポリシーを策定し公表した。
- ・コチュテル（共同指導）実施について、ストラスブール大学と協定を 2016 年 2 月 3 日に締結し、派遣学生の博士課程後期課程修了まで継続予定である。
- ・PGP の分析は、対象学生の全てが最短修業年限を迎える平成 29 年 9 月を待って実施することが効果的と判断した。

【平成 28 年度自己評価(1)】

自己評価 III

【平成 28 年度年次計画(2)】

- ・教育課程にナンバリングを導入する。
- ・体系的なカリキュラムの構成を視覚的に示すカリキュラム・フローの点検・見直しを図る。
- ・特別講義として、英語による授業「海事を科学する」を学部 2 年生対象に開講する。
- ・研究科博士課程前期課程における英語のみの利用による学位取得のための教育プログラム（英語コース）の具体化を進める。

【平成 28 年度実績(2)】

- ・教育課程のナンバリングを導入した。
- ・視覚的に示したカリキュラム・フローを公表した。
- ・英語による授業「海事を科学する I」を学部 2 年生対象に後期に開講した。
- ・研究科博士課程前期課程における英語による学位取得環境を整備し、平成 29 年研究科の改編に反映させた。

【平成 28 年度自己評価(2)】

自己評価 III

【平成 28 年度年次計画(3)】

- ・多くの優秀な志願者を確保するため、入試広報の点検と改善を図る。
- ・戦略的な入試広報を展開する。

【平成 28 年度実績(3)】

- ・8月10日にオープンキャンパスを実施し、648名の参加が得られた。
- ・学習塾主催の説明会に3回参加し、約350名の参加が得られた。(6/9大阪校約220名、7/4上本町校約110名、9/14京都校約20名)
- ・夢ナビ大阪会場に参加し、114名の参加が得られた。
- ・高校への出張講義を6件行い、約315名の参加が得られた。
- ・高校の大学見学対応を6件行い、約188名の参加が得られた。
- ・高大連携特別講義を担当し、108名の参加が得られた。
- ・10月1日に大学院オープンキャンパスを実施し、4名の参加が得られた。
- ・1月29日に第9回サイエンスフェア in 兵庫に4研究室が参加し、パネル展示を行った。

【平成 28 年度自己評価(3)】

自己評価 III

【平成 28 年度年次計画(4)】

- ・基礎教養科目、初年次セミナーなど、新しい科目区分の授業を開始する。
- ・アクティブラーニング手法を先行して取り入れた授業について、その効果を検討し、ノウハウや課題など情報共有を図る。
- ・教育課程の構成と内容に関し、海事社会・産業の声を積極的に反映させる体制を検討する。

【平成 28 年度実績(4)】

- ・基礎教養科目、初年次セミナーなど、新しい科目区分の授業が開始された。
- ・平成 28 年度前期にアクティブラーニング形式で初年次セミナーを実施した。また、実施に関する全学的なアンケートに向けて本学部授業担当者対象の調査結果をとりまとめた。
- ・合同会社説明会で実施したアンケート結果を確認した。

【平成 28 年度自己評価(4)】

自己評価 III

【平成 28 年度年次計画(5)】

- ・高度人材育成のための大学院カリキュラム編成を検討し、大学院改組に合わせたカリキュラム内容の見直しを行う。
- ・英語による授業の実施状況の点検・評価を行い、英語による授業を推進させるための条件や環境の整備に取り組む。

【平成 28 年度実績(5)】

- ・平成 29 年研究科の改編および博士課程前期課程の入学定員改訂(15名増)が確定した。
- ・研究科博士課程前期課程における英語による学位取得環境を整備し、平成 29 年研究科の改編に反映させた。
- ・特別教授関水康司先生による特別講義「国際海事社会学」(使用言語は英語)を開講し、2017 年度コース横断型教育プログラムに反映させるよう検討を行った。

【平成 27 年度自己評価(5)】

自己評価 III

【平成 28 年度年次計画(6)】

- ・教育課程の構成と内容に関し、海事社会・産業の声を積極的に反映させる体制を検討する。

【平成 28 年度実績(6)】

- ・2016 年 3 月開催の合同会社説明会で実施したアンケート結果の分析及び別途行った海事産業のヒアリング結果を、2017 年博士課程前期課程の改編計画に反映させた。
- ・2017 年 3 月開催の合同会社説明会で、海事科学部・海事科学研究科が輩出する人材と教育課程に関するアンケート調査を実施した。

【平成 28 年度自己評価(6)】

自己評価 III

【平成 28 年度年次計画(7)】

- ・海技教育センター改組の具体案を策定して決定し、平成 29 年 4 月改組を準備する。
- ・従来実施してきた関西海事教育アライアンスの点検・評価を行い、大阪大・阪府大と連携して、必要に応じた改善を行う。

【平成 28 年度実績(7)】

- ・海技教育センターの機能の見直しを行い、海技教育に関する教育プログラムの開発、学習支援、キャリア形成などの総合的な教育支援組織への改編を 2017 年 4 月に行うことを決定した。
- ・クォーター制に対応した関西海事教育アライアンスのカリキュラム内容の改定を、大阪大学・大阪府立大学と共同して行い、2017 年度計画を策定した。

【平成 28 年度自己評価(7)】

自己評価 III

2. 研究

【平成 28 年度年次計画(1)】

- ・部局内の研究パフォーマンスの把握と分析に基づき、戦略的な研究連携及び研究グループの構築を推進するため、国際海事研究センターをプロジェクト型の組織に改める具体案を策定して決定し、平成 29 年 4 月改組を準備する。
- ・海洋底探査センターに関わる研究や今後の発展が期待できる研究テーマを推進するため、新規教員採用を実現する。
- ・高い研究成果が見込まれるプロジェクトに対し、人事及び予算の両面から、部局支援の方策について検討を行う。

【平成 28 年度実績(1)】

- ・国際海事研究センターが先端研究の創出及び牽引する拠点形成となることを目指し、従来の 6 研究部門体制から、研究部門の統合・整理と強化のため 4 研究部門体制に改め、2017 年 4 月から新体制で活動することを決定した。
- ・海洋底探査センターに関係する研究推進のため、神戸大学テニュアトラックプログラムを活用し、「海域火山のリスク科学」分野の新規教員を 2017 年 2 月に採用した。

【平成 28 年度自己評価(1)】

自己評価 III

【平成 28 年度年次計画(2)】

- ・国際共同研究による共著論文や影響力のある研究成果の発表，地域の科学技術インフラの活用などを積極的に評価し，教員の研究パフォーマンスの向上を図る。
- ・教員の更なる研究意欲の向上を図り，積極的な国際ジャーナルへの投稿を促すために，研究分野に応じた業績評価基準の見直しや教育・研究環境の改善を進め，引用度トップ 1% 論文を創出できる基盤整備に着手する。

【平成 28 年度実績(2)】

- ・国際海事研究センターの 2017 年 4 月改組に向けて，国際共同研究の拡大支援など高い研究成果の創出を促進する環境を整えた。
- ・研究活性化委員会において，業績評価基準の改訂に関する課題について意見交換を行った。

【平成 28 年度自己評価(2)】

自己評価 III

【平成 28 年度年次計画(3)】

- ・URA との連携を強化し，部局内の研究力分析を行うとともに，戦略的研究推進・企画立案を検討する場を整える。
- ・「海洋底探査」や「未来都市」などのユニットとの連携も視野に入れ，国際海事研究センターを研究プロジェクト型の組織に改める具体案を策定して決定し，研究の活性化を図る。

【平成 28 年度実績(3)】

- ・URA との定期的に意見交換の機会を設け，科研獲得額増大と高水準論文の創出に関する活動指針の検討を行った。
- ・URA から提供を受けた科研の申請及び獲得の分析情報を元に，科研費獲得額増大に関する目標の設定を行った。
- ・国際海事研究センターが先端研究の創出及び牽引する拠点形成となることを目指し，従来の 6 研究部門体制から，研究部門の統合・整理と強化のため 4 研究部門体制に改め，2017 年 4 月から新体制で活動することを決定した。

【平成 28 年度自己評価(3)】

自己評価 III

3. 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育研究

【平成 28 年度年次計画(1)】

- ・海技教育センター改組の具体案を策定する。
- ・海事産業界及び地域の産官諸団体と連携して，勉強会，講演会，見学会などを実施する。

【平成 28 年度実績(1)】

- ・海技教育センターの機能の見直しを行い，海技教育に関する教育プログラムの開発，学習支援，キャリア形成などの総合的な教育支援組織への改編を 2017 年 4 月に行うことを決定した。
- ・神戸ラスキン会（神戸海事クラスター勉強会）を 9 月 2 日に開催した。
- ・日本舶用工業会研修を 11 月 15-18 日に開催した。
- ・特別顧問水康司先生による特別講演会「海事産業とマリタイムガバナンスの研究」を 2 月 14 日に開催し，神戸海事クラスターからの聴講参加者を多く得た。

【平成 28 年度自己評価(1)】

自己評価 III

【平成 28 年度年次計画(2)】

- ・練習船深江丸共同利用運営協議会を開催し、共同利用実績を点検・評価する。
- ・「深江丸」共同利用の維持と促進を図るため、新規利用大学を開拓する。

【平成 28 年度実績(2)】

- ・練習船深江丸共同利用運営協議会を開催し、昨年度の共同利用状況と利用者からのアンケート結果をもとに、改善点の確認と、改善に向けて検討を行った。
- ・深江丸教育関係共同利用促進のため、協議会委員及び海事科学研究科所属教員から、広く他機関へ広報を行った。
- ・平成 29 年度深江丸教育関係共同利用の公募を開始した。

【平成 28 年度自己評価(2)】

自己評価 III

4. グローバル化

【平成 28 年度年次計画(1)】

- ・若手教員の海外渡航を奨励するため、渡航中の授業、研究指導などの対応について支援強化策を検討する。
- ・長期海外派遣制度を利用して渡航する若手研究者とともに、事前に部局のミッションに絡めた国際共同研究への戦略的展開について検討し、国際共同研究を推進する。

【平成 28 年度実績(1)】

- ・短期在外研究者 1 名を豪州 (AMC) に派遣 (2016.3-4.) し、長期在外研究者 1 名をドイツに派遣 (2016.3-2017.3) した。
- ・上記短期在外研究者は AMC との共同研究を開始した。
- ・若手教員の中長期海外派遣に際し、不在中の教育・運営業務に関する支援体制を組織的に構築するため、研究活性化委員会において議論を行った。

【平成 28 年度自己評価(1)】

自己評価 III

【平成 28 年度年次計画(2)】

- ・大学院の改組に向けた外国人留学生の募集について、学術交流協定締結校を中心として広報する。

【平成 28 年度実績(2)】

- ・STAMNS 短期サマースクールを実施した。
- ・大学院改組準備室において、英語による学位取得環境の整備計画を整えた。
- ・大学院第Ⅱ期入学試験(12月)の広報を進め、留学生の拡大に向けた活動の基盤整備を行った。

【平成 28 年度自己評価(2)】

自己評価 III

【平成 28 年度年次計画(3)】

- ・海外での学会発表や国際的な共同研究を行うための部局内の奨学金を活用し、海外への派遣数の増加を目指す。
- ・海事産業界の協力を得て、国際インターンシップを実施する。

- ・国際インターンシップが学生に与える影響や効果について検証する。

【平成 28 年度実績（3）】

- ・梅木奨学金により、4-6 月期 2 件、7-9 月期 4 件、10-11 月期 9 件、1-3 月期 1 件の学生の海外での学会発表等の支援を行った。
- ・国際インターンシップは受け入れ企業との調整不成立により実施を中止したが、来年度の実施について調整を進めるとともに、国際インターンシップのあり方を継続して協議する体制を整えた。

【平成 28 年度自己評価（3）】

自己評価 III

5. 組織運営の改善

【平成 28 年度年次計画（1）】

- ・独自の教員活動評価指標について、実績に基づく点検・評価を行い、改善を検討する。
- ・年俸制の制度理解のため、情報整理と情報提供を進める。

【平成 28 年度実績（1）】

- ・月給制、年俸制共通で部局独自の教員活動評価シートにより、対象教員すべてが自己点検を行い、設定基準に基づく教員活動評価を実施した。
- ・本部から提供される年俸制の情報について、随時情報提供を行い、制度の周知に努めた。

【平成 28 年度自己評価（1）】

自己評価 III

【平成 28 年度年次計画（2）】

- ・女性教員在職比率の適性を継続的に検討する。
- ・教員公募にあたっては、女性の応募を奨励する。
- ・大学院入学者の女性比率の増加を目指して、広報活動等を行う。

【平成 28 年度実績（2）】

- ・女性限定で海事科学域（先端融合研究環）教員を公募し、2017 年 4 月着任が決定した。
- ・教員ポイント管理導入における人事計画を策定した。
- ・男女共同参画推進室と連携して、女性研究者の雇用時間数を拡大した。

【平成 28 年度自己評価（2）】

自己評価 III

【平成 28 年度年次計画（3）】

- ・教育研究を活性化するため、若手教員の採用を計画する。
- ・若手人材の採用環境の整備を行う。

【平成 28 年度実績（3）】

- ・教員ポイント管理の環境下において、任期付き教員等の承継選考計画を策定し、支障ないことを確認した。
- ・教員着任時の予算重点支援制度を継続した。
- ・神戸大学テニユアトラックプログラムにより若手教員を採用し、2017 年 2 月着任した。

【平成 28 年度自己評価（3）】

自己評価 Ⅲ

6. 財務内容の改善

【平成 28 年度年次計画（1）】

- ・大型施設・設備を活用した自己収入の実績と、それに伴う教職員の負担の相関について実態把握と分析を進める。
- ・外部研究資金獲得のための研究企画及び申請書の作成支援を研究分野毎に継続実施する。

【平成 28 年度実績（1）】

- ・科研申請早期支援プログラムへの申請を、組織的に、及び効果が期待できる教員個人に促した。
- ・科研申請書作成支援について、大型予算獲得実績者、審査委員実績者の協力を得た。
- ・附属練習船等を活用した自己収入の実績と、それに伴う教職員の負担の相関について実態調査を行い分析材料を整えた。

【平成 28 年度自己評価（1）】

自己評価 Ⅲ

【平成 28 年度年次計画（2）】

- ・募金活動のため、学部生・大学院（前期）就職先一覧に基づき、企業・団体に教員を訪問させ、同時に、本学部・研究科への期待等に関する情報把握と整理を行う。

【平成 28 年度実績（2）】

- ・100 周年記念募金活動として、264 件、130,840 千円（2/27 現在）の寄附入金および申し出を得た。
- ・現在の部局独自の奨学会運用について、将来展望を検討した。
- ・新たな寄附により「奥野基金」を創設し、奨学金給付計画を制定した。

【平成 28 年度自己評価（2）】

自己評価 Ⅲ

7. 自己点検・評価及び情報提供

【平成 28 年度年次計画】

- ・平成 27 年度自己点検評価を実施し、報告書を発行する。
- ・平成 27 年度自己点検評価の過程で蓄積する各種データを、可能な限り大学本部に提供する。

【平成 28 年度実績】

- ・平成 27 年度自己点検評価を実施し、報告書を発行した。
- ・平成 27 年度自己点検評価の過程で蓄積する各種データを、大学本部に提供した。

【平成 28 年度自己評価】

自己評価 Ⅲ

8. その他業務運営

【平成 28 年度年次計画（1）】

- ・深江キャンパスマスタープランの点検・評価を行い，中長期整備計画の検討を進める。

【平成 28 年度実績（1）】

- ・2 号館北棟改修検討 WG において改修計画，及び改修後のプラン等を策定した。
- ・文部科学省 2017 年度・2018 年度 2 ヶ年の事業として，改修工事が内定した。
- ・深江キャンパスマスタープランの点検・評価および中長期整備計画の検討について，施設部との連携を確認した。

【平成 28 年度自己評価（1）】

自己評価 III

【平成 28 年度年次計画（2）】

- ・練習船「深江丸」の代船建造計画立案し，大学本部，文部科学省と折衝を進める。
- ・深江キャンパスの教育研究設備の整備・維持管理計画に，直近の利用環境と利用実績を反映させる。

【平成 28 年度実績（2）】

- ・練習船新船建造検討委員会を新たに発足させ，代船検討 WG における検討結果を基に，大学本部，文部科学省との折衝を開始した。
- ・教育研究設備の利用環境と利用実績の分析を開始し，整備・維持管理の改善検討に反映させる体制を整えた。

【平成 28 年度自己評価（2）】

自己評価 III

9. その他

なし